

報告者： 澤野 建太 ( 北海道コース )

■テーマ : H29 JFA公認指導者B級ライセンス昇級講習会

■目的 : 全国から集まった育成年代の指導者と協力・切磋琢磨し、c級からのレベルアップを目指し、よりサッカーの仕組みの理解を高める。

■分析対象: 講習会における、講義・実技・指導実践

■流れおよび全体像: 前期後期共に、講義・実技・指導実践を組み合わせで行われた。

・講義は、「GK」・「コミュニケーションスキル」・「プランニング」・「コーチング」・「プレーの原則」・「プレーの分析」・「技術・戦術的課題」・「暴力根絶ディスカッション」・「コーチの役割」・「フィジカル」・「セットプレー」の11テーマであった。

・実技は、「フィニッシュ」・「前線の崩し」・「ポゼッション (パス&コントロール)」・「ビルドアップ (自陣からのポゼッション)」・「守備① チャレンジカバー」・「守備② スライド」・「クロスの攻撃」・「クロスの守備」・「GK」の9テーマで行われた。

・指導実践は、前期の最初、前期の最後、後期中盤、後期の最後の計4回行われた。

・前期後期の最後に筆記試験が1回ずつの計2回と、口頭試問が1回行われた。

・共通科目として、「スポーツ医学」・「スポーツ心理学」・「スポーツ社会学」・「トレーニング科学」の4分野について、計13のレポート課題を行なった。

・前期から後期への課題として、「2017指導指針レポートU-14/u-16」・「暴力根絶レポート」の3つが課題として出された。

#### ■課題の発見と分析

今回の講習会では、プレーの原理原則を始め、サッカー指導において必要不可欠なプランニングや分析といった様々な内容について学ばせていただいた。その全てに共通して「6W1H (いつ・どこ・だれ・なに・なぜ・何のために・どのように)」が大切であると感じた。これを意識し的確にプレーを分析・整理しプランニングすることが、PDCAサイクルをより良い循環にするために重要であると再確認した。また、現場で目の前の選手を指導するときにも重要なポイントである。講習会で私が重要であると感じた「選手の納得感」を高くするためにもより良いタイミングで、的確なポイントを押さえて指導していく必要がある。納得感が高ければ指導はスムーズに選手の中に入っていき、選手の成長につながる。この納得感を高めるためにも常にこれらを意識しながら選手を見ていかなければならないと強く感じた。

また、この講習会では印象に残った言葉が二つある。「だから、やらない→でも、やる」・「磨いて輝かない選手はいない」である。指導者が選手の可能性を信じ、言い訳を作ることなく、常に前向きに指導に当たることが、より良い選手の成長につながると強く思わせてくれた。今後も今回の講習会で学んだことを目の前の選手に還元していけるように努力を続けていきたい。